

## 平成30年度 PROG 実施報告書

### 1. PROG の実施目的

高校までは主に知識や技能が重視されが、大学生や社会人、さらに専門職には思考力・判断力・表現力のように知識を活用する力(リテラシー)と主体性・多様性・協働性のような主体的に学習に取り組む態度(コンピテンシー)が重視されるようになる。その背景は文部科学省や経済産業省や社会の要請がある。本学は、看護師、社会福祉士、教師、保育士等の対人援助職を目指す学生が多く、リテラシーとコンピテンシーを高めることは極めて重要である。

今回実施した PROG テストは、リテラシーやコンピテンシーを評価するために実施した。今回のテスト結果を学生にフィードバックし、授業に活用し、学生自身が自身の強みと弱みを認識し、強みをより強化し、弱みを克服するように指導・支援することによって、学生の成長をさせる。

今年度1年生から継続的に PROG を実施し、卒業時には社会にでた場合に必要とされるスキルや能力を強化していく。

### 2. PROG の解説会

日時:7月23日 13:30～15:00

場所:長束キャンパス 0305 教室

学生にテストを実施する前に、本学教員の PROG やそれを実施することで得られる効果に関する知識を深めるため、PROGを開発したリアセックの主任研究員の石川純一氏を講師として招き、7月23日(月)に解説会を行った。本学からは、本学の PROG 実施責任者、対人援助研究センターの責任者・副責任者、事務職員、計12名参加した。

PROG の概要やその中で行われるリテラシーやコンピテンシーの種類と測定される能力、本学の学生の成績、他大学の結果との比較、結果の学生へのフィードバック方法等についての内容であった。本学の看護学科、スポーツ健康福祉学科、子ども学科、音楽学科のディプロマポリシーと関連付けた資料との関連について、また、PROG で測定したリテラシーやコンピテンシーの結果を基に、本学で育成すべき能力についての説明があった。

### 3. PROG テストの実施

- 1)子ども学科:7月25日(水) 実施人数:67名(70名中)
- 2)音楽学科:7月25日(水) 実施人数:46名(46名中)
- 3)スポーツ健康福祉学科:7月30日(火) 実施人数:126名(128名中)
- 4)看護学科:8月4日(土) 実施人数:128名(130名中)



<子ども学科のテストの様子>



<看護学科のテストの様子>

#### 4. 結果報告会

日時:10月22日(月)14:45~16:00 場所:坂キャンパス 大講義室 2309 教室

PROG の実施結果や他大学との比較をリアセック石川氏から報告いただきました。本学からは、本学の PROG 実施する責任者、対人援助研究センターの責任者・副責任者、1年生のチューターの教員等が計 23 名参加した。まず、本学の 1 年生と全国私立大学の一年生の平均の比較を紹介した。リテラシーの要素である、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は全国の私立大学と比較して、本学の方が全て低い値を示しており、本学の学生教育の課題が明確となった。一方、コンピテンシーの要素である課題発見力、計画立案力、実践力のスコアは本学の方が全国よりもわずかに低かったが、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自身創出力、行動持続力のスコアは本学の方が全国よりも高く、コンピテンシーのスコアは総合的に全国を上回る結果となった。対人援助職を養成する大学として、コンピテンシーが高いことは明るい結果であったが、今後さらに向上させていく必要がある。

学科を比較すると、リテラシーのスコアは 1 位:看護学科、2 位:音楽学科、3 位、子ども学科、4 位:スポーツ健康福祉学科で、コンピテンシーのスコアは 1 位:スポーツ健康福祉学科、2 位:音楽学科、3 位:子ども学科、4 位:看護学科であった。石川氏によるとリテラシーとコンピテンシーは他大学のデータでは相関しないとの説明があったが、反比例に近い結果となった。

PROG 結果を用いた学生指導を行う際、学生のある要素が低い値を示した時でも、「伸びしろがある」という表現を用いて指導することで、低い学生でも PROG の結果を前向きに捉えられるようにする必要があると指摘があった。

#### 5. 結果フィードバック

- 1)スポーツ健康福祉学科 :10月22日(月) 参加人数:116名
- 2)子ども学科 :10月23日(火) 参加人数:52名
- 3)音楽学科 :日時:10月24日(水) 参加人数:33名
- 4)看護学科 :日時:10月24日(水) 参加人数:123名

テストの結果を適切にフィードバックするため、リアセックの石川氏を招き、PROG 結果を各学科で学生に対してフィードバックを実施した。そこでは結果紹介、他学科や他大学との比較を紹介した。ま

た、アクティブ・ラーニングとして学生同士が自身の結果を紹介し合あい、互いに結果を褒める特徴を捉えるようなグループワークを行った。また、石川氏がうまく学生と接しながら、対話形式で講義を行い、各キャンパスの学生が集中して聞いていた。特にスコアの高い学生に挙手をさせた時、学生から歓声が起こり、その後の話にも引き込まれていた。

スポーツ健康福祉学科では、これまでのテスト(小学校～大学の暗記中心のテスト)では点が取れず、コンプレックスに感じていたが、コンピテンシースキルのような力があることを知り、強く自信となった等、前向きな意見が学生から聞かれた。

子ども学科では、これまでテストで良い点を取る以外明確な目標がなかったが、今回のテストで自身の強みと弱みが分かり、今後小学校教員を目指すうえで自分が何を鍛えていくべきか明確になったなどの感想が出された。

音楽学科では、グローバルな人材はコンピテンシーが高い値を示していると講義で紹介されており、日本全国や世界で活躍する音楽演奏者を目指して、2つの力を高めていきたい等の声があった。

看護学科では、学生からコンピテンシーは今後看護師になる上で、絶対必要となるので、他学科と比べ低かったので、高めるように努力していきたいという意見があった。

今後、継続して PROG を実施し、今まで可視化できなかったリテラシースキルとコンピテンシースキルの成長を確かめると共に、教職員全員で PROG 結果の情報共有を行い、学生の教育やキャリア形成に活用し、対人援助職のエキスパートを養成の質を上げていく。



< 講義の様子(スポーツ健康福祉学科) >



< 学生の様子(スポーツ健康福祉学科) >



< 講義の様子(子ども学科) >



< 学生の様子(子ども学科) >



< 講義の様子(音楽学科) >



< 学生の様子(音楽学科) >



< 講義の様子(看護学科) >



< グループワークの様子(看護学科) >